

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	令和5年10月19日	評価結果市町村受理日	令和5年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770500132-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770500132-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 11 月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食バランスの取れた職員自ら作る温かい食事とおやつを提供</li> <li>・質改善委員会を独自で立ち上げ小さな改善を重ねてそれを研究発表に繋げている</li> <li>・持ち上げない介護(ノーリフトケア)を導入し指導者を育成している</li> <li>・写真付の広報誌を年に2~3回家族へ郵送している</li> <li>・ご家族の施設内面会(利用者様居室にて)を10月から再開</li> <li>・環境を活かして目の前のかりゆしの庭で歩行訓練を兼ねた散歩、焼き出しやBBQ等の行事を開催</li> <li>・ホールが広々としていてゆったり過ごせる、各利用者様個室がありプライベートが守られる</li> <li>・入浴は完全マンツーマンで行っている</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所から23年目を迎える事業所は、小高い丘の上に立地している。医療法人を母体とし、敷地内には介護老人保健施設や通所リハビリテーション事業所、小規模多機能型居宅介護等が併設されている。ベテランの看護師が専任で配置されており、利用者の健康や服薬管理がなされている。職員も利用者の変化に対する相談等ができるため、安心してケアができています。同法人の管理栄養士が栄養バランスとカロリー計算した献立を作成している。その献立をもとに毎食を事業所職員で手作りし、家庭的な雰囲気での食事の提供ができています。職員が働きやすい環境づくりとして、プリセプター制度を取り入れている。また職員の身体的な負担も軽減することで長期的に働く場となるように、ノーリフトケアの実践できるように職員研修を積極的に行なっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で理想の施設はどうあるべきかを一緒に考え新しい理念を分かりやすく作り変え今年度中に上司へ提出予定	開所当時からの理念があったが、日々のケアの中で職員全員が同じ方向を向いて支援ができるように理念について検討した。自分たちの言葉で職員だけでなく利用者や地域の方にもわかりやすく、親しみのある理念を職員全員で考え、法人へ提案中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の定期開催、訪問理容、訪問診療、外出支援を行っている。防火訓練には地域の方の参加、そして今後、地域の小・中・高の学校へ啓もう活動予定あり、地域ボランティアも社協へ養成予定	事業所は、嘉数地区の自治会に加入している。自治会が主催するお祭りへの参加案内の声かけや、自治会長が差し入れを持って施設訪問することもある。社会福祉協議会の職員から、ボランティアの紹介があったり、12月には保育園の慰問を予定している。利用者が地域とつながり、交流が持てるように積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小・中・高の学校へ啓もう活動参加予定(11月～)また年明け家族会の再開と看取りや緊急時対応についてもお話す予定	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から定期開催出来ており地域包括支援センターの方からレク体操DVDを頂き取り入れたり、認知症カフェの紹介や自治会の方たちの防火訓練や行事参加も予定中	コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるために、運営推進会議の開催を昨年は中止していた。令和5年4月から対面での会議開催を再開している。	これから定期的な運営推進会議の開催を行い、構成委員として家族や知見者の参加が望まれる。事業所の運営が利用者にとってよりよいサービスの取り組みになるように改善に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主にいろいろなアドバイスを頂いている(地域ボランティアなど)	レクの充実のためにと、地域包括支援センターの職員が作成した『ウチナー口体操』のDVDの提供があった。そのDVDを事業所のレクに活用したり、認知症カフェの案内もあったので利用者と参加予定している。社会福祉協議会や包括支援センターの職員が運営推進会議に参加したときやその都度相談している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な施設内・外の研修の他、E-ラーニング(いつでも受けられるオンライン研修)を利用して共通認識を持ってケアにあたっている	法人組織内の安全管理課長へ定期的な相談や身体拘束防止の指針とマニュアルは整備されている。集合型の研修は感染対策の観点から避けて、資料を配布し各自での読み込みと、オンライン動画を活用した研修を実施している。身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会の開催がない。	3ヶ月に1回の身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会が実施されていない。定期的な開催が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内・外の研修の他、E-ラーニング(いつでも受けられるオンライン研修)を利用して共通認識を持ってケアにあたっている	事業所内で虐待防止の研修の実施あり、虐待防止マニュアルも整備されている。利用者が就寝後に車椅子をベットから離れた場所に片付けることは、転倒リスクの回避のためだったとしても、行動の制限となっているので、車椅子のブレーキをかけて、ベットサイドに配置できるようにしたりと、日々のケアについて職員間で検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度入職した職員へはまだ成年後見制度について説明は今現在出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の説明、疑問点などの確認、退所時には原因と理由を関係者(かかりつけ医等)と一緒に話し合いを行い判断している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時に要望等聞き取りするようにしている	利用者には日々の生活の中で要望等を聞いている。家族からも面会を再開して欲しいと声もあり、再開している。家族から「童謡を聞くと落ち着くので聞かせて欲しい」とCDを預かったり、腕の力が強くて椅子からの転倒が多かった利用者が、家族からの要望で車椅子で安定すると提案があり、車椅子に変更したら転倒がなくなった事例もある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的な聞き取りの他、ミーティングを活用し実行出来ている。聞き取りした物は次年度計画等に反映させている	理念の見直しやシフトごとの業務の流れの作成を職員からの提案があり、職員全員で検討した。職員一人一人が業務に取り組みやすいように意見を出し合いながら工夫している。職員全員が確認する連絡帳やLINEなどを活用して情報の共有等行なっている。年休も100%取得できるように職員の希望も確認しながら管理者が意識的にシフトを調整している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望は極力叶え、年休消化も積極的に取り組んでいる。やりがい、向上心に関しては研修参加、役割を持ってもらい自己研鑽に努めてもらっている	職員の特性に合わせて業務の流れを細分化したことがきっかけで、職員全員で統一できるように業務内容をマニュアル化している。業務のマニュアルについては、その都度内容を見直し、更新している。事業所独自に利用者の質改善委員会を設置し、法人の質改善活動の中で研究発表した。実践の発表が職員のモチベーションにも繋がった。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を利用し実行出来ている。必要に応じ個人指導も行っている(ノーリフト等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内にあるおもと園との連携で会議を通して情報交換をしたり協力してもらったりしている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人へ十分な聞き取り、観察、ご家族からの情報を活用し努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時必ず聞き取りを行っている。また面会時など都度確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLや周辺症状等の聞き取りをし、基本的なサービスの構築実行出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切りやほうき掃除など出来ることを時々無理のない程度に頑張ってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や利用者様の日用品の買い物などご家族にも協力して頂いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前生活されていた家へご家族とドライブを兼ねて外出してお盆を過ごしたり、旦那様の周忌の際は仏壇に手を合わせにいらしている	家族と一緒に外出時に自宅に帰宅し、おやつを食べて過ごしたり、法事に参列するために外出や東北から馴染みの方の面会がある。コーヒーが好きな利用者が多く、もっとコーヒータイムを楽しめるように喫茶店へ出かけ、「コーヒーが美味しい」という利用者の声もあり、いつもと一味違うコーヒータイムも大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々実行出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方は看取り完了か医療処置の必要な終末期の方が多くまめな連絡は取っていないが永眠された際にはご家族から必ず連絡が来ます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は都度聞き取りを行って聞き取りが困難な方はご家族にアドバイスを頂いている	利用者から行きたいところや食べたいもの、してみたいことがあるかを聞き取りして、まとめている。「お寿司が食べたい」という利用者には、誕生日にお寿司を準備して食べてもらい「美味しい」と喜んでもらった。家族からの以前はどうだったかなど確認したり、入所前のアセスメントを参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りをした情報は共有し支援に反映させている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報共有し把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの課題を職員で提案したりご家族の要望聞き取りをし支援に取り入れたりしている。ケアプランは職員が目をもいつでも通せるようにまとめたファイルをおいている	介護計画はケアマネが利用者や家族の要望を確認して、居室の担当職員にも意見を聞きながら作成している。モニタリングは毎月実施しており、LIFEを活用して、職員全員が共有認識できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadで記録を残し更に口頭での申し送りをこまめに行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、現場と相談しながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪、訪問診療、訪問歯科、地域ボランティアの活用が出来ている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々希望のかかりつけ医に受診している。2名は訪問診療利用中	7名が入居前からのかかりつけ医へ家族対応で通院をし、2名が訪問診療を利用している。皮膚科や眼科などへの受診も家族対応で受診している。職員は、ベテランの専任看護師の配置で安心して介護に専念し、利用者の変化についてもすぐに相談できる環境にある。コロナ、インフルエンザワクチン接種は、職員、希望の利用者も隣接の同一法人の医師に対応してもらえる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療やかかりつけ医との連携が取れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を必ずこちらから入れるようにしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてのサインや緊急時の対応(延命処置)の希望の聞き取りとサインを頂いている	入居時に、重度化や終末期についての方針を説明している。「看取り介護に関する同意書」で同意を頂いている。今年の3月に施設で看取りの対応を行い、感染対策を取りながら、家族も宿泊できるよう整え、最後の時を穏やかに見送ることができた。喀痰吸引の研修受講者も3人おり、現在は該当する利用者はいないが管理者は、最終的には全員が資格取得できるよう目指している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員にCPR指導者が1名いるので毎年実技講習を施設内で行っている	昨年度は利用者の急変で救急搬送が7件あり、入院、2名の利用者はカンファレンスの結果、療養型施設へ転院された。CPR指導者がいるので、CPRの日として全員で実技講習を受講する環境を整えている。「緊急持ち出しファイル」が準備され、急変、事故発生時にはいつでも全職員が即対応できるよう訓練され、実践力を身に付けている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	両方の訓練や実技実習を行えている。隣のおもと園と連携し、安全感染対策委員会を通し協力体制を築いている	今年の8月に消防設備の点検調査を受けているが、年2回の避難訓練を今年度はまだ、実施されていない。感染症については、法人の安全対策本部があり、年に2、3回確認指導を受け、感染対策の外部研修にも参加している。	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行う避難訓練が、今年度は行われていない。避難訓練は、災害発生時に迅速かつ適切な対応を行うために必要であり、消防法令に基づく義務となっているため、昼夜想定訓練の実施を望む。



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応出来ている	入居時に「個人情報利用同意書」の説明を行い、利用者、家族の同意を得ている。法人は、入職後のオリエンテーションで職員の教育、指導を行っている。ベテランの職員が多く、担当制にしているが、管理者は信頼して家族との対応も任せ、職員は一人ひとりに寄り添い、個人を尊重した言葉遣いや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の支援中に聞き取りを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	睡眠時間も無理強いせずおのおの自由にして頂いている。入浴も拒否が強い時は柔軟に曜日変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を希望する利用者様にはご家族に声掛けし持参して頂いたりご本人が昔洋裁した洋服などを持ってきて頂いている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本隣のおもと園の栄養士作成のバランスの取れた食事の他、手作りのおやつを提供している。また出来る範囲で野菜の下ごしらえやカット、下膳をお願いしている	隣接法人の管理栄養士作成の献立を基に、食材を配達してもらい3食とおやつを職員が手作りしている。1日1600kcal位でカロリーバランスが取れ、しっかり出汁をとった温かい食事が、蓋つきのお椀や小鉢で準備され職員の細かい配慮が感じられる。介助が必要な方も含めて殆どの利用者が完食し、調査当日も食欲をそそる香りの中で食前のパタカラ体操の声が聞こえていた。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の記録をし、摂取量が少ない場合は申し送りをし追加で飲んで頂くか利用者様の好きな飲み物をご家族に持参して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を毎回確認し職員同士で共通認識のもとケアを行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	工夫出来ている。現在夜間だけおむつ使用1名のみ	日中、夜間とオムツ使用は1名のみで、リハビリパンツとパットで対応し、排泄シートを活用して日中、夜間トイレでの排泄支援を行っている。大きく表示されたトイレは、男女共用で2か所あるが、奥は主に男性と車イスの方が利用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週2回おやつにヨーグルトを食べてもらう工夫と排便チェックを行い3日以上出ない時は看護師に確認しマグミットやセンノサイド頓服か摘便、浣腸を行っている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全マンツーマンでの入浴を行っている。拒否が強い時は柔軟に曜日を変更して対応	脱衣所、洗濯室、浴室と広めのスペースが確保され、洗面台も2台設置されている。週2回のシャワー浴とストレッチャー浴も支援している。畳のベットでゆったりと着替えや整容ができるように脱衣所、風呂場にはプライバシーに配慮してドアとカーテンを取りつけている。シャンプーなどの消耗品は施設で準備しているが、肌の弱い方は家族へ依頼して届けてもらっている	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、安全面などを考慮し居室で休む方、ホールソファで休む方色々で夜間は環境を整えて各自の居室で入眠して頂いている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬ファイルを作成共有し変更があった場合は連絡帳と申し送りで情報共有している。またLIFE入力も当番制にし薬の把握に努めている	服薬管理は、専任看護師が主に担当しているが、LIFEの入力など薬情報は、職員で管理している。ふらつきのある利用者の状況を看護師と相談して医師へ諮り、減薬をしたケースもある。与薬は職員が行い、飲み込みまで確認し、飲み忘れ防止に職員のアイデアで配膳台の上にクリップ留めにしたり、ダブルチェックを行っている。服薬支援マニュアルが確認できなかった。	服薬ファイルが作成され、フローチャートは準備され掲示されているが、安心安全のための服薬支援マニュアルが確認できず、今後、ひやりハットの報告書と合わせて整備を期待する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日に本人の希望されることを叶えたり、琉舞や体操のDVDを活用している。その他読書や計算、塗り絵など個人が好きなものを取り組んで頂いている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日に本人の希望する場所へ外出支援することになっている	近年は、施設の前にあるベンチや東屋でお茶を楽しんだりしているが、今後は運営推進会議で包括の方から誘いのあった「認知症カフェ」などにも外出を予定している。誕生日の方3名を連れて糸満までドライブへ行ったり、喫茶店を楽しむなど制限が緩和され、家族の居室での面会も緩和しつつ、家族との外出の機会も増やしていけるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からおこずかいを預かり居室担当者を中心に帳簿をつけ管理している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙、電話を希望する方はいないが施設内で直接面会を再開している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員手作りの大きなカレンダーを利用したり季節の装飾品を利用者様と一緒に作成したりして工夫している	広い廊下に季節のクリスマスの飾り付けや壁にはイベントの利用者の写真が飾られている。廊下には職員手作りの利用者の誕生日がすぐに分かるバースデープレートが飾られ、大きなカレンダーは、いつでも目に入るようにリビングのガラス窓に張り付けられている。調査当日もレク担当職員と一緒に日付を読み上げたり、レクで歌う楽しそうな声が聞こえていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっているが、おのおの気に入った場所があるのでそこで休んで頂いている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毛布や枕、お気に入りのぬいぐるみ、CD、ラジオなど持参して頂いている	入居時に、利用者、家族に自宅で使用している物や好みものを持参してもらえるよう説明し、ぬいぐるみなどを持ち込まれている方もいる。電動ベット、エアコン、クローゼット、チェスト、洗面台が設置され、口腔ケアや身支度などを居室で整えられるように配慮されている。職員が清掃、除菌を行い、日中は窓を開け、入口ドアもプライバシーに配慮しつつ換気用に開けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	都度変化していくので観察を続け職員間で共有し低下を遅らせる支援の工夫をしている		